

つながりを積み重ねること
-福島県沖地震における支援活動に関して-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学司書・司書教諭課程 公開日: 2022-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 秋澤, 奈緒 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/22492

つながりを積み重ねること-福島県沖地震における支援活動に関して-

明治大学文学部卒業生

秋澤奈緒

2021年2月13日、最大震度6強を記録した福島県沖地震によって、新地町図書館は大きな被害を受けました。

私は大学2年生時・3年生時の2回、新地町図書館でのボランティアに参加しました。新地町の公民館に滞在しながら、本の貸出から配架、データ入力、本の廃棄など多岐にわたる業務を体験させていただきました。業務の合間には、ボランティアに参加した学生たちで企画したクイズラリーや読み聞かせなどのイベントや、被災地域の見学などを通し、地域の方々とも多く交流させていただきました。

たった1週間ほどのプログラムですが、この体験は私の価値観に大きな変化をもたらし、「被災地」という言葉の捉え方も大きく変わりました。

テレビの枠でトリミングされた映像を見ているだけでは伝わってこなかったものが、実際に現地の人話を聞いて、その土地で過ごしてみると少し見えてくるように感じました。

2年のボランティア参加時に建設中だった建物が3年のボランティア参加時には立派にオープンしているなど、「復興」にわずかながら立ち会った身からすると、地震によって見知った風景が荒れてしまった光景はとてもショッキングでした。

綺麗に整列していた本が地面に散乱し窓ガラスも割れてしまった痛ましい新地町図書館のニュース映像を見て、現地に片付けの手伝いに行きたいと強く思いましたが、コロナ禍ではそれも難しく、何かできることはないかと考えて思いついたのが今回の企画でした。

新地町図書館司書の目黒美千代さんから頂いた、「震災で落ち込んでいる町民がほっとするような、大人も子供も楽しめる展示物を考

えてほしい」というご要望をもとに、本と比べて対象年齢の幅が広い映画を足掛かりにして映画と本を紐づけて作品をオススメする企画展示「逆引きおすすめ作品」を作りました。

この企画は、現地で業務を行った際、映像資料の貸出が非常に多かったことから思いついたものでした。新地町図書館は大きな図書館ではありませんが、町の人々の興味に合わせてきめ細かく蔵書を揃え、憩いの場となるよう工夫が凝らされた、とてもあたたかい図書館でした。

卒業を間近にひかえた3月、2度のボランティアの引率をして下さった鳥居高先生にご支援頂きながら、一緒に参加した中村夏奈子さんと共に急ピッチで企画展示の掲示物を完成させ、新地町図書館にお送りしました。

しばらくして、新地町図書館からメールをいただきました。利用者の方々に興味深そうに展示を眺めていました、というご報告と共に、「地震の被害がひどすぎて手探りの状態の中で、一度訪れてくれた生徒の皆さんが力になりたいといってくれたこと、そして新地町を想ってくれたこと、涙が出るほどうれしかったです」というお言葉を頂きました。

被災地図書館ボランティアにて、様々なことを教えていただいたことへの恩返しが少しでもできたのかなと思います。また、本や図書館を通して、遠く離れた新地町の方々となつなぐことが出来たことをとても嬉しく思いました。

私自身も、いつ災害に見舞われ「被災者」となるかわかりません。だからこそ、こういった「人とのつながり」を今後も大切にしたいです。たとえ小さくとも、こういったつながりの積み重ねは必ず互いの助けになるのではないかと感じています。